

## 老年看護学実習／2学年

### 1. 実習目的

老年期の特徴をとらえ対象の健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、身体的、心理的、社会的に高齢者の全体像を捉えることができる。
- 2) 老年期にある対象の健康に影響を与える要因を理解し、健康の維持・増進、健康障害予防のための援助ができる。
- 3) 老年期にある対象の日常生活行動、健康状況を把握し、生活背景、生活習慣との関連を理解した上で、その人らしい生活を送るための援助をできる。
- 4) 老年期にある対象の継続看護の必要性を理解し、対象だけでなく家族に対する援助ができる。
- 5) 老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一員としての役割を理解する。
- 6) 人格を尊重した倫理的態度を身につけ、老年期にある対象への看護を実践できる。

### 3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
<p>1. 老年期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標 1、2、3)</p>	<p>1) 老年期の特徴をふまえて対象の発達課題について述べるができる。</p>	<p>(1)高齢者のライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的特徴の理解（加齢・老化に伴う変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的特徴 恒常性機能、体力、運動、臓器、感覚、知覚の変化、廃用症候群</li> <li>・精神的特徴 心理・精神的機能、記憶の変化</li> <li>・社会的特徴 家庭内、職業的役割の変化、経済的变化 余暇時間の増大</li> <li>・認知症の特徴 見当識障害、情緒障害、人格障害</li> </ul> <p>※疾病の経過別実習内容については、成人看護学実習（周手術期・慢性期・終末期）を参考にする。</p>
<p>2. 高齢者の特徴や健康レベルの状況を把握し、看護過程を展開する。 (実習目標 1、2、3、4)</p>	<p>1) 対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について述べるができる。</p> <p>2) 対象の基本的ニーズの充足状況について述べるができる。</p>	<p>(1)病態生理の把握 (2)症状・状態の観察 (3)治療方針・検査・治療内容</p> <p>(1)基本的ニーズの観察 (2)基本的ニーズの充足・未充足</p>

一般目標	行動目標	実習内容
	<p>3) 対象の全体像を把握し、説明することができる。</p> <p>4) 対象や家族に合わせて健康回復や自立に向けた援を実施できる。</p>	<p>(1)人間像・生活像・病態像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の自立状況</li> <li>・食事、排泄、清潔、活動、睡眠、衣生活等</li> <li>・生活習慣、生活環境、生活歴</li> <li>・家族背景、家族歴、時代背景</li> </ul> <p>(1)症状や状態、健康段階に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の回復、健康の増進</li> <li>・苦痛の緩和、疾病の予防</li> </ul> <p>(2)安全・安楽を考慮した援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安楽を阻害する因子</li> <li>・危険因子の予測、予防、軽減</li> </ul> <p>(3)残存機能を生かした援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の程度</li> <li>・廃用性萎縮の予防</li> <li>・ADLの拡大</li> </ul> <p>(4)自立や自発的な行動への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活意欲の向上（身体面、精神面）</li> </ul> <p>(5)入院に伴う問題に対する援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への適応</li> <li>・二次的障害・合併症の予防</li> </ul>
<p>3. 継続看護における看護者の役割について理解する。 (実習目標 4、5)</p>	<p>1) 対象に必要な継続看護の必要性を述べるができる。</p> <p>2) 対象の継続看護に関わるメンバーと看護者の役割、社会資源について述べるができる。</p>	<p>(1)継続看護の意義・目的</p> <p>(2)ライフサイクルに沿った一貫したヘルスケア</p> <p>(3)健康のあらゆるレベルに対応したヘルスケア</p> <p>(1)看護者の役割</p> <p>(2)家族への情報提供</p> <p>(3)社会資源の活用方法</p> <p>(4)退院指導や転院の手続き</p>
<p>4. 対象の人生観・価値観を尊重し倫理的態度を身につける。 (実習目標 6)</p>	<p>1) 対象とのコミュニケーションからどのような人生を歩んできたのか、何を大切に生きてこられた方なのかを記述できる。</p> <p>2) 対象を尊重した態度、言葉遣いができる。</p>	<p>(1)対象の人格を考慮した援助</p> <p>(2)家族を含めた対象の理解度に応じた情報提供、指導、説明</p> <p>(1)対象を尊重した関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感的態度、受容的態度</li> <li>・相手を尊重した言葉遣い</li> </ul>

#### 4. 実習時間（単位）

総時間 90時間 （2単位）

1) 臨地実習（病棟） 66時間

2) 学内実習 24時間 （0.53単位）

目的：臨地での学びを振り返り、理解を深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を深め、技術練習の時間とする。

③教員の指導のもと看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

<実習時間>

	9:00～9:45	9:45～10:30	10:30～11:15	11:15～12:00	12:00～12:45	13:45～14:30	14:30～15:15	15:15～16:00	16:00～16:45
1日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
2日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
3日目	臨地実習					学内実習			
4日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
5日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
6日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
7日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
8日目	臨地実習					学内実習			
9日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
10日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	

#### 5. 実習方法

1) 老年期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する。

2) 基本的ニーズを把握し、看護上の問題を明らかにする。基礎看護学実習Ⅱ（25ページ）に準じる。

3) 看護計画を立案し、患者に必要な援助を実践する。

（1）看護計画の立案

- ・看護目標は達成できたかどうかを評価できる表現にする。
- ・解決策はOP（観察）・TP（処置及びケア）・EP（指導）に分け、記述する。
- ・看護計画の立案は3日目に行う。

（2）援助の実施、（3）評価・修正、4）1日の目標と行動計画は基礎看護学実習Ⅱ（25ページ）に準じる。

5）報告、6）学生カンファレンスは基礎看護学実習Ⅱ（26ページ）に準じる。

#### 6. 実習記録

1) 実習の記録を参考に作成する。

2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日病棟に提出する。

#### 7. 実習評価

老年看護学実習評価表を用いて評価する。

# 老年看護学実習評価表

第 期生 学籍番号 学生氏名

実習場所 病棟

実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日

項目	評価対象	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数
1	実習ノート全体	身体の高齢変化についての情報を収集し、記載している □皮膚の状態(性状、変調、病変、ドライスキンなど) □感覚機能の変化 □筋力(握力・関節可動域・姿勢保持・歩行能力) □認知機能(注意力・記憶・見当識・せん妄) □廃用症候群	身体の高齢変化についての情報を収集し分析しているが、不十分な項目が1項目ある	身体の高齢変化についての情報を収集し分析しているが、不十分な項目が2~3項目ある	身体の高齢変化についての情報を収集し分析しているが、すべての項目において不十分である	0
2		老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一人としての役割を以下の項目を踏まえて記載することができる □老年期にある対象への継続看護の必要性 □継続看護に関連する職種や社会資源と看護師の役割	老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一人としての役割を概ね記載することができる	老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一人としての役割について記載しているが左記項目のうちどちらかが不十分である	老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一人としての役割の記載が左記項目どちらも不十分もしくはできない	0
3		受持ち患者についての情報収集を行い、受持ち患者記録 I の全ての項目を記載できる	受持ち患者記録 I を記載しているが、不十分な項目が1項目ある	受持ち患者記録 I を記載しているが、不十分な項目が2~3項目ある	受持ち患者記録 I を記載しているが、不十分な項目が4項目以上ある	1
4		ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を記載できている。また、今後予測されることも踏まえた情報収集や分析ができている	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を概ね記載できている	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を概ね記載できているが、不足な項目が複数ある	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を記載することができていない	2
5		収集したニーズの情報から、全ての項目における充足・未充足を根拠を持って概ねアセスメントすることができる	収集したニーズの情報から、その患者にとって主要な項目(生命・予後に関わる、または最も苦痛となっていることなど)における充足・未充足を根拠を持って概ねアセスメントすることができる	収集したニーズの情報から、その患者に主要な項目(生命・予後に関わる、または最も苦痛となっている)における充足・未充足は判定できるが、分析・考察に不足がある	ほとんどの項目で収集したニーズの情報を根拠を持って分析・考察できていない	2
6		対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理している □病態生理の把握 □症状・状態の観察 □治療方針・治療内容 □検査データ □検査データの推移	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが不十分な箇所が左記項目のうち1~2項目ある	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが遅い。または、不十分な箇所が左記項目のうち3項目ある	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理できず、不十分な箇所が左記項目のうち4箇所以上ある	2
7	看護計画立案	対象に看護を行うために必要となる情報とそのつながりを全体関連図に整理することができる □身体的情報 □精神的情報 □社会的情報 □ADL・セルフケア情報 □家族の情報 □疾患・治療に関する情報 □発達段階の特徴	時間を要すが、対象に看護を行うために必要となる情報とそのつながりを全体関連図に概ね整理することができる	対象に看護を行うために必要となる情報とそのつながりを全体関連図に整理するが、不足する項目が1~3項目ある	対象に看護を行うために必要となる情報とそのつながりを全体関連図に整理するが、不足する項目が4項目以上ある	2
8		専門的知識をもとに、看護として解決していくべき問題を適切に抽出し、優先順位を選定することができる	解決していくべき問題の抽出および優先順位の選定については、助言を受けてできる	解決していくべき問題の抽出または優先順位の選定については、助言を受けてもできない	0	
9		助言を受けなくても以下の項目に沿った看護目標の設定ができる □現実的な目標である □理解できる目標である □測定できる目標である □行動できる目標である □達成可能な目標である	設定した看護目標は、左記項目のうち1~2項目が不十分であり、指導を受けて修正することができる	設定した看護目標は、左記項目のうち3項目が不十分であり、指導を受けて修正することができる	設定した看護目標は、左記項目のうち4項目以上が不十分である。または指導を受けても修正することができない	2
10		解決策は、個別性があり、5W1Hで具体的に援助内容を記載している	解決策は、個別性があり、具体的な援助内容を5W1Hで記載している。一部に個別性または具体性に不十分なものはあるが助言により修正できる	解決策は記載しているが、5W1Hで記載できていない部分が多い。全体的に個別性及び具体性が不十分であり、助言により修正できる	解決策は記載しているが、全体的に個別性及び具体性が不十分であり、助言を受けても修正できないことが多い	1
11	実践	行動計画に基づき患者の状況に合わせながら実践できる ＜行動計画に必要な内容＞ □患者の生活・治療・処置を考慮したタイムスケジュール □具体的な行動内容	行動計画に基づき実践できる	行動計画に基づき実践できていないことがある	必要な援助が行動計画に記載されていず、実践できていないことがある	1
12		以下の項目のすべてにおいて看護実践できている □患者の反応を見ながら言葉かけしている □個別性に応じた工夫ができる □プライバシーの配慮ができる □時間・効率性を考えて行動できる □患者に合わせた説明ができる □患者家族の話をよく聞いている □自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えている	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が1~2項目ある	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が3~4項目ある	左記項目の看護実践の中で不十分な箇所が5項目以上ある	0
13		患者のセルフケアを活かし、危険を予測して安全安楽に看護実践している	助言を受けて、患者のセルフケア能力をいかに、危険を予測して安全安楽に看護実践している	助言を受けても、患者のセルフケア能力、安全安楽の視点のどちらかが不十分である	助言を受けても、患者のセルフケア能力、安全安楽の視点のどちらも不十分である	2
14		援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察が以下の項目全てにおいて記載できている □学習したことが反映されている □客観的な情報に基づいて判断している □患者の状態を正しく理解し考察している □予測性を持った考察ができている□具体的にわかりやすく記載できている	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が1~2項目ある	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が3~4項目ある	援助した結果の記載および患者の反応や状態における考察で不十分な箇所が5項目ある	1
15	態度	対象の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時看護計画を修正できる	少しの助言で対象の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時看護計画を修正できる	かなりの助言で対象の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時看護計画を修正できる	助言があっても計画の妥当性の評価や必要時看護計画の修正ができない	1
16		どのような状況でも対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができる	多くの場面において、対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができる	対象の人格や生活史を尊重した態度で、接することができない	0	
17		看護師や教員に報告・相談をしている □援助前後 □適切なタイミング □患者の変化 □自己の所在	報告・連絡・相談において不十分な項目が1項目ある	報告・連絡・相談において不十分な項目が2項目ある	報告・連絡・相談が不十分な項目が3項目以上ある	1
18		・自己の課題解決に向け実習に臨み、学習を進めている ・わからないところはすぐに調べたり質問し、早期に解決しようとしている (アドバイスの赤ペンに対し、調べて返答している)	・自己の課題を理解し、学習を進めている ・わからないところは調べたり質問し、解決しようとしているが、時間がかかる	・学習を進めているが自己の課題に結びついていない ・わからないところを解決するための取り組みが不足している	・実習を進めていくにあたり、学習を進めていない ・自分のわからないところを認識していない	0
19	行動	・自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、2日以上遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時に必要な対処ができない	2	
20		学習者としての自覚を持ち、以下の項目全てにおいて取り組むことができる □実習ノートの整理 □課題や提出物の期限を守る □常に身だしなみを整えている □教員・病棟スタッフとのコミュニケーション(態度・言葉遣い・表情) □学内実習 □学内ミーティング	以下の項目において、取り組むことが不十分で指導を受けることがある □実習ノートの整理 □課題や提出物の期限を守る □常に身だしなみを整えている □教員・病棟スタッフとのコミュニケーション(態度・言葉遣い・表情) □学内実習 □学内ミーティング	以下の項目が該当する □ノートの整理、課題や提出物の期限を複数回守れない □身だしなみが乱れており実習に適した状態に改善することができない □実習時間中の居眠り、ミーティングでの消極的態度、実習グループ全体の活動への不参加などが複数回ある □学習者として適切なコミュニケーション(姿勢・言葉遣い・表情)が取れないことが複数回ある □個人情報の管理ができない □当学院の倫理規定に反する行動がある	0	

看護部長	印	看護師長	印	指導者	印	担当教員	印	合計
		出席すべき時間数	時間	出席時間数	時間	欠席時間数	時間	/100点